

味の素株式会社(2802)
国際財務報告基準(IFRS)導入について

2016年11月8日

1. 国際財務報告基準(IFRS)導入について

◆IFRS任意適用の目的

- 株主・投資家の皆さまをはじめとしたステークホルダーとのコミュニケーションの向上
- グループ内外における財務情報の国際的な比較可能性の向上

◆開示スケジュール

年度 (決算期)	2016年度(平成29年3月期)				2017年度(平成30年3月期)			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
開示時の 会計基準	日本基準				国際財務報告基準(IFRS)			

2017年 2月17日	17-19中期経営計画	: IFRS
2017年 5/中旬	決算発表	: 日本基準
	2017年度業績予想	: IFRS
2017年 5/下旬	連結計算書類	: 日本基準
2017年 6/下旬	有価証券報告書より	: IFRSを適用

2. IFRS移行の主な影響(概算値)

FY2016 修正予想 日本基準		IFRS 導入影響	FY2016 修正予想 IFRS (概算)	
売上高	10,950		10,950	売上高
売上原価・販管費	▲10,135	88	▲10,046	売上原価・販管費
		23	23	持分法による損益
営業利益	815	※ 112	927	事業利益(注)
		▲78	▲78	その他の営業損益
		34	849	営業利益
		▲28		
		9	3	金融収支
持分法投資損益	28			
営業外損益	▲6			
経常利益	837			
特別損益	▲51	51		
税前利益	786	66	852	税前利益
法人税等	▲244	▲11	▲255	法人税等
当期利益	542	55	597	当期利益
親会社帰属	445	55	500	親会社帰属
非支配帰属	97	0	97	非支配帰属

(億円)

※112億円の導入影響内訳

- ①表示組替による影響 28
- ②認識・測定の違いによる影響 84
 - ・のれんの非償却化 : 64
 - ・持分法損益の測定差異 : ▲4
 - ・退職給付費用の測定差異: 23
 - ・その他 : 1

(注) 事業利益について

当社が経営管理のため独自に定義した利益指標
売上高－売上原価－販売費及び一般管理費＋持分法による損益

3. 2016年度修正予想 セグメント別IFRS影響額

(単位:億円)

	日本基準	IFRS	差異
売上高			
日本食品			
海外食品			
ライフサポート			
ヘルスケア			
その他			
セグメント利益(※)	815	927	112
日本食品	370	411	41
海外食品	361	394	33
ライフサポート	45	47	2
ヘルスケア	63	79	16
その他	▲24	▲4	20

売上高への影響なし

※日本基準では営業利益、IFRSでは事業利益(注)を指す。

(注) 事業利益について

当社が経営管理のため独自に定義した利益指標。IFRS適用後はセグメント損益に事業利益を用いる。
売上高-売上原価-販売費及び一般管理費+持分法による損益